

令和6年度第1回松浦市まち・ひと・しごと創生協議会 議事録（要約版）

日 時：令和6年9月19日（木） 13時00分～15時00分

場 所：市役所 4階 委員会室

【開会】

【協議会委員委嘱状交付】

【松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要について】

「事務局説明」

【議事 総合戦略に基づく施策の評価・検証について】

「事務局説明 略」

基本目標1「しごととの創生」について

（委員①） 企業誘致も大事な施策だと思うが、経営者の方と話すと人手が足りない、もっと新卒の採用をしたいが松浦に残ってくれなくて、採用もうまくいかないという声を多く聞く。インターンシップや企業説明会という取り組みもあるが、松浦で育った子供たちが松浦である一定数定着して暮らして生活をしていくというサポートを力入れてやっていくことが一つ重要だと思っている。

近隣の市町の方でも働く場があるなかで、いかに松浦に若い方が定着して生活の礎を築くかというところに非常に重要な要所があるのではないかと考えている。

（議長） 若者の域外流失の抑制や本市への還流推進ということで、人の創生という部分でも関連性が出てくると考えている。

（事務局） 松浦市だけではなく、各地方において問題になっている状況であると理解している。資料1において、転入転出の差が令和4年度、令和5年度がこれまでに比べると若干減少している。これはよい傾向だととれるが、コロナが緩和されて外国人の転入が増えてきたというのが一因ではないかと考えている。

若者が地域に残るための支援ということで、市としては現時点では松浦高校と魅力化を進めて、市内の子供たちができるだけ松浦高校に入学してもらおう取り

組みをおこなっており、松浦高校では地域を知って地域課題を解決するような探求型の学習に取り組んでいる。これが地元の還流につながるのではないかと考えており、これはしっかり進めていきたいと考えている。もしよければ船越校長先生のほうから生徒の就職、進学状況や、現在のまつナビの取り組みをご紹介いただきたい。

- (委員②) 就職を希望する生徒は1学年の3割くらい。就職希望者に関してはほぼ松浦周辺を希望している。今の3年生は地域科学科の1回生であり入学者数が少ない年であるため、就職希望者も20人と満たないが、県外を希望している生徒は3人しかいない。福岡を希望している生徒が3人。伊万里市方面から毎年求人が来ており、2人希望している。あとは松浦か佐世保かとなるが、伊万里市や佐世保市に勤務の生徒たちも松浦から通っている生徒が多いと思う。

7割は進学であるため、進学となると松浦から通える大学、専門学校は少なく、長崎県立大学や長崎短大にいく生徒は松浦に住んで通学をしているようであるが、ほかの卒業生は松浦市から出て、それぞれの所在地に居住しているというような形になっている。

まつナビをやることで松浦市のことを知って、松浦の良さを十分に理解することがやはり大きいと思う。平成29年度からまつナビを本格的にやり始めており、これをやった卒業生たちが松浦に戻ってくる、大学や専門学校に行った後でも戻ってくるといった還流が起きてくれればということをお願いしながら取り組んでいるところである。

基本目標2「ひとの創生」について

- (委員②) インターンシップについては、本校においても昨年度からインターンシップを2年生の3学期に行っている。3日間行っており、これは進学希望者もすべて参加させる形で実施している。今年度も全員、市内の企業に希望をとって実施をしている。また、昨年度から仕事図鑑を作成しており、これはいろんな事業所を訪問させていただいて、それぞれの事業内容等をまとめて小学生、中学生に配布をさせていただいている。市役所の支援事業の中で冊子化させていただ

いており感謝している。

(議長) インターンシップを松浦高校でも実施されているということあったが、何社くらい参加させているのか教えていただきたい。

(委員②) 1社あたり2～3人行っている。今の3年生だと10数社行っていると思う。また、中央病院と消防署の大規模災害の訓練にも医療系の志望者、それから消防や警察を希望する生徒が参加しており、自分の将来とつなげて仕事について学ぶ機会をいただいている。

(議長) 市の取組みとしては、令和5年度未実施という結果となっているが、近年の状況はどうなのか。

(産業振興課) インターンシップへの参加企業数は、松浦高校から受け入れ先が見つからないという相談を受けた経緯があり、松浦高校と一緒にいった結果を挙げさせていただいていたが、令和5年度については認識不足であった。令和5年度から再開されているということなので、協力して実施させていただきたいと思う。

(議長) 確実に資料としても数字を挙げていただければと思う。

(委員③) 松浦高校の魅力化について、令和7年度入学希望者数は7月頃の調査の段階ではおそらく60人くらいであった、定員の半数くらい。一方で清峰高校は定員よりも30人くらい多く、倍率も1.3倍くらい。松浦からも清峰を希望する生徒が結構いる。市として松浦高校への支援を行っている一方で、親は子どもが行きたいといえば清峰、費用が掛かるけれどやっぱり出す。魅力化の支援をしていることが大人の感覚の支援だと思っており、子どもたちが行きたいと思うような魅力化を、子どもたちにとって魅力的な部分を、行政としてもっと支援をする視点を持たないといけない。来年入学希望者が定員半数くらいと数字に表れている。具体的にどこに進学するってなったときに、佐世保や猶興館ではなく、現段階で松浦高校へ行きたいというような人数が多くなる支援が必要であると思っているが、そのあたりどのように考えているか。

(事務局) 今年の7月の松浦高校への進学希望者数は確か68であったと思うが、昨年度の7月現在では50数人となっており、また、市内の中学3年生の数でいう

と今年度のほうが少ないことから、同時期の比較では若干増えていることが見えることから、市としては昨年よりは評価をしているところである。松浦高校としてもいろんな媒体を使った情報発信に努められており、魅力も一定程度、中学生にも伝わってきたかなと思っている。年一回、3月に松浦市の支援事業に対するアンケートを保護者と生徒を対象におこなっており、その結果を見ると支援事業が経済的な負担の軽減につながっている部分も当然あるが、支援事業があったことで進学を希望する保護者も一定程度おり、中学3年生の回答においても支援事業があったから希望していると回答した生徒もいたため、方向性としては引き続きそのあたりを推進していきたいと思っている。

清峰高校は昨年度も定員をオーバーして今年度も7月時点ですでに定員より多くなっている。佐世保の高校でいえば佐世保西高校は定員割れしている中でもなかなか生徒が集まっている。その辺の分析がしっかりできていないところはあるが、当然そこも把握しながら松浦高校の支援に取り組んでいきたいと思っている。

（議 長） 今後もしっかりと何が必要かを把握しながら、施策の推進に努めていてもらいたい。

（議 長） 合成特殊出生率が令和4年度1.36となっているが、変動の理由をどのようにみているのか。

（事務局） 補足として、令和4年度は1.36と前年と比較して大きく減っており、これは県が毎年参考値として出している数字である。一方で5年間の統計資料を基に国が出している合計出生率の数字を見ると、平成30年から令和4年度の5年間で、合計特殊出生率は1.75となっている。

基本目標3「まちの創生」について

※特に意見等なし

【議事 次期総合戦略について】

《事務局説明 略》

(委員②) DX を取り入れるのが当然の流れだと思うが、私は教育の場にいるということもあり、人、対話であったり、場の創出、そういったところがないとよい町にならないと思う。佐世保に 20 年住んでおり、一般社団法人の町づくりの団体に入っていて、町の活性化に取り組んでいり。大学生や高校生を入れていろいろな意見を出し合いながらイベント等を考えている。こういった人がまじりあいながら町をよくしていこうという考え、場が大事だと思う。松浦高校にもっと市内の中学生来てほしいと思うが、全員が来るわけではないしそれは無理かなと思う。市外の高校に行っている生徒が松浦に住んでいるけれど何か活動をしているのかというとなにもしていない。そういう生徒たちも松浦高校生と一緒に活動ができたらと思うが、そういう場がない。佐世保では町の協議会が使っている場があってそこで話し合いをして、市内に住んでる中学生、高校生が参加して、そこにコーディネーターみたいな人が常駐して、いつも話をしなにかやってる感じがある。そういうところからまちづくりっていうのができないのかなと思う。そういうのがあってまちの魅力になり若者たちが、例えば松浦高校の生徒や市外に行ってる生徒も、将来松浦で働きたいとか暮らしたいなと思ってもらうようなことができないのかと常々考えている。佐世保も高校生が県外に行くことに危機感を持ち、そういう取り組みをしている。D X も世の中のこと考えると大事であるが人を中心にして考えていかないといけないと思う。

(議長) 次期計画ではD Xについても取り組みますが、ご意見にありましたように、人を大事にした取組みは次の計画にも載せて、松浦も対話によるまちづくりなどを中心に据えて行っているため、よりその辺がわかるような新しい総合戦略をこれから意見をいただきながら作っていかれたらと思う。

(委員④) 労働団体の関係で他の市町のまち、ひと、しごと協議会にも入っているが、全体を見て、みなさんもうちょっと気合を入れていただきたと感じた。一つの事柄に対して二重も三重もの戦略を立てているところもある。

中身を見ると、子育て・育児支援や今現在働かれている現役世代と高齢者の方に関しては若干あるが、そのあとの生涯学習についてすこし薄いかなと感じて

いる。また、松浦市というところで見ると、鷹島、福島、青島、離島等もあるが、土地もいっぱいある。松浦市も企業誘致。企業誘致をすると人が来る、住でくれる、税金が入って次の戦略に持っていける。

今、仕事感的にこれをしなきゃいけないという雰囲気があるため、もっと活発な意見も欲しいし、委員からも活発な意見を出して意見交換していくことが一番じゃないかなと思っている。

(議 長) 今の意見を我々も真摯に受け止めて、職員一同次期計画の作成だけではなく、その実現に向けても、心を引き締めて取り組んでいかなければいけないと思う。

(閉会)